

滝澤 奈恵 氏の学位審査結果の要旨

主査：人見 浩史

副査：上野 博夫、塩島 一朗

両側副腎摘除術後の副腎自家移植手術は、生着に問題があり、ほとんど行われていない。申請者らはラット副腎自家移植片を用いて、生着率向上を目的に、早期機能回復に寄与する因子の同定を行った。ラット両側副腎を摘出し、摘出副腎から移植片を作製した。右大腿二頭筋に自家移植し、移植後1~4週目に移植片ならびに血液を採取し、種々の方法で解析した。糖質コルチコイド産生能は、移植後3週目には sham 群と同等まで回復した。一方、鉱質コルチコイド産生能は未回復であった。内分泌機能の改善に一致して、これまで報告されていない *Desert hedgehog (Dhh)* のびまん性の発現上昇を移植片で認めた。本研究の結果により、副腎自家移植片の副腎皮質組織リモデリング、内分泌機能再獲得における DHH の重要性が示唆された。

両側副腎摘除術後のステロイド補充療法回避策として、副腎自家移植手術は有用と考えられる。本研究の結果はこれまで明らかとなっていなかった DHH の関与を明らかとし、基礎研究のみならず、その臨床的意義は大きいことから、学位に値すると考える。